



「神が いるなら、 どうして…」

ねんしろうそう しんさい こうくうきしょうとつじこ ちゅうどう ながび せんそう
年始早々の震災、航空機衝突事故、中東やウクライナでの長引く戦争、
コロナやインフルエンザといった病気の流行...毎日のように報道される
いた じげん ほんざい おもくる もんだい わたし と ま ほうどう
痛ましい事件や犯罪など重苦しい問題が私たちを取り巻いています。こ
のような時、「神がいるのなら、どうして災害、事故、戦争、病気などが
あるのか。どうして解決しないのか。」と言った声を聞くことがあります。
そして、こういったことを理由に「神はいない」、「神を信じない」とい
う人がいます。皆様はどう思われるでしょうか。

1. 神のご存在

「神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造
されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼
らに弁解の余地はありません。」
(新約聖書・ローマ人への手紙 1章 20節)

まず、神がおられるかどうかは、諸問題の解決が見られるかどうかで
はなく、自然界を通して示されているということです。例えるなら、私

たちが美術館^{びじゅつかん}に行き、そこに展示^{てんじ}されている美術^{びじゅつ}
 品^{ひん}を見たなら、それらの作品^{さくひん}を作った作者^{さくしゃ}が存在^{そんざい}
 することがわかるのと同じです。私たちは、神^{かみ}の
 作品^{さくひん}に満ちた世界^{せかい}に生かされています。いやそれ
 以上^{いじょう}に、驚^{おどろ}くべき仕組^{しく}みを持ったからだ^{かみ}を神^{かみ}から
 いただいて生きています。



2. 人間の罪

つづ つぎ
 続いて次のようにあります。

「彼らは神^{かみ}を知^しっていないながら、神^{かみ}を神^{かみ}としてあがめず、感謝^{かんしゃ}もせず、...朽^く
 ちない神^{かみ}の栄光^{えいこう}を、朽^くちる人間^{にんげん}や、鳥^{とり}、獣^{けもの}、這うもの^はに似^にたかたちと替^か
 えてしまいました。そこで神^{かみ}は、彼ら^{かれ}をその心^{こころ}の欲望^{よくぼう}のままに汚^{けが}れに引^ひ
 き渡^{わた}されました。...彼ら^{かれ}は、あらゆる不義^{ふぎ}、悪^{あく}、貪欲^{どんよく}、悪意^{あくい}に満ち、ねたみ、
 殺意^{ころし}、争^{あそ}い、欺^{あざむ}き、悪巧^{わるたく}みにまみれています。」 (同 21、23、24、29 節)

造り主^{つくりぬし}である神^{かみ}を認めず感謝^{かんしゃ}もせず、しかもその神^{かみ}を人間^{にんげん}の手^てで作^{つく}
 ったもの^{もの}に置き換^かえてしまうことは、神^{かみ}にたい^{たい}する侮辱^{ぶじよくこうい}行為^{にんげん}です。人間^{にんげん}は自
 分の欲望^{よくぼう}を達成^{たっせい}するために、神^{かみ}の主権^{しゅけん}を認めず、それに逆^{さか}らっています。
 これ^{これ}が罪^{つみ}です。この罪^{つみ}があるために、個々^{ここの}の罪^{つみ}（うそ、争^{あそ}い、妬^{ねた}み、暴力^{ぼうりよく}など）
 が人間^{にんげん}の内^{うち}から出^でてくるのです。

今^{いま}の世界^{せかい}に多^{おほ}くの問題^{もんだい}があるのは、このよう^{にんげん}な人間^{にんげん}が自分^{じぶん}たちの欲望^{よくぼう}
 を追及^{ついきゅう}して行動^{こうどう}したからであり、欲望^{よくぼう}のままに振舞^{ふる}えばどのよう^まになる
 かを人間^{にんげん}自身^{じしん}が知るために、神^{かみ}が許^{ゆる}された結果^{けつ}なのです。欲望^{よくぼう}を追い求^{もと}
 めることは、人間^{にんげん}を幸^{しあわ}せにするのではなく、却^{かえ}って争^{あそ}い、奪^{うば}い合い、傷^{きづ}
 つけ合^あうようにしかならないのです。

また、自然^{しぜん}災害^{さいがい}や病^{びょう}気^きというものも神^{かみ}が世界^{せかい}を造^{つく}られた時^{とき}にはありま
 せんでした。さいしょにんげん 最初^{つみ}の人間^{おか}であるアダム^あが罪^{せかい}を犯^かしたことで、この世界^{せかい}が
 のろ^{のろ}け^けつ^つか^か 呪^{のろ}われた結果^{けつ}もたらされたのです。

3. 神の怒りと罪の刑罰

「不義^{ふぎ}によって真理^{しんり}を阻^{はば}んでいる人々^{ひとびと}のあらゆる不敬^{ふけい}虔^{けん}と不義^{ふぎ}にたい^{たい}して、

神の怒りが天から啓示されているからです。」(同18節)



神は自然界を通してご自身の存在を示しておられるだけでなく、罪に対する怒りも示しておられます。罪にあふれたこの世界は、やがて神によって裁かれ滅ぼされます。そればかりか、人間の個人個人の罪も神はすべてお裁きになります。

「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている…」

(新約聖書・ヘブル人への手紙9章27節)とある通りです。

4. 神の哀れみと救い

神は正しいお方ですが、哀れみ深いお方です。皆様方が神の怒りに触れ、裁きを受けることを望んでおられません。むしろ、皆様方が罪の赦しを得て、死んでも神のおられる天国に行き、神と共に永遠に生きる者となられることを望んでおられます。そのため神は、ご自分のひとり子であるイエス・キリストを人としてこの世界に遣わされ、十字架に架けられました。

イエス・キリストには、何の罪もありませんでした。しかし、皆様に代わって十字架の上で罪の刑罰を受けて、身代わりに死んでくださったのです。さらに死後3日目には死を打ち破ってよみがえられました。こうしてご自分が唯一まことの救い主であることを証明してくださり、誰でも主イエス・キリストを信じる者は罪赦されて天国に行く者となることを示されました。

どうか皆様もイエス・キリストを信じ受け入れられて罪赦され、天国に行く方となってください。聖書には天国とそれに続く永遠の世界のすばらしさが約束されています。



「神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」

(新約聖書・ヨハネの黙示録21章4節)